

9月2日(水)に杉野先生の生活活動の授業について、初任者の先生方で授業研究を行いました。3年生のⅢ類型の児童にとっては初めての「買い物」を題材として取り上げた学習になります。杉野先生の授業には、きらりと光るポイントがたくさんつまっていました。

## ポイント①＜安心安全な教室環境＞

教室内が整理されていて、児童が安全に活動できるようにされていました。複数の遊具を用いた活動でしたが、お店屋さんと遊具の設定位置が工夫されていました。縦の動きだけでシンプルな構造になっていたことが、安全面も児童の分かりやすさの面からも良かったという意見が挙がりました。

## ポイント②＜設定の工夫＞

今回は遊園地屋さんで「お金を払う→遊具で遊ぶことができる」という設定でした。児童がこれまでに取り組んだ学習を生かして、「買い物」の学習を設定されていました。初めての学習をする際には、児童がこれまでに学習したことを生かすことで学習に取り組みやすくなります。

## ポイント③＜教材の工夫＞

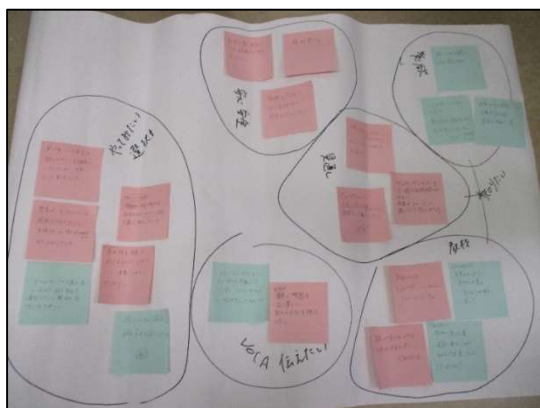
遊具を選ぶ際の写真の提示では、コントラストの分かりやすい色の写真や黒地の台紙の活用などの工夫があり、児童が写真に注目しやすくなるようにされていました。選択肢も児童の興味・関心に合わせて2つに絞り、見比べやすいようにされていました。

★改善点としては、次のような点が上がりました。

- ・児童の意欲を高めるための手立て  
教師の見本を見せる時間の適切な長さ
- ・選択した内容と活動内容との一致  
視覚障害のある児童が選択する際の手立て  
選んだカードと遊具をマッチングさせて確認する



(遊具の写真)



(研究協議のまとめ)

みんなで話し合うことで、新しい視点が得られました。杉野先生、ありがとうございました！



## 肢体不自由教育ミニ研修

車いすについて、その部位の名称や乗せるときのポイントなどをお伝えします。  
車いすは、肢体不自由のある児童生徒にとってはただ乗って移動するためだけのものではなく、生活するための道具になります。教師が車いすについての必要な知識をもち、対応できるようになることは、児童生徒が安心安全に生活や学習を行えることにつながります。

★車いすといっても用途によってさまざまな種類があります。



車いすは、主に移動のために使用します。座位が取れて安定している子どもや、自走することができる子どもが使用しています。

座位保持装置付き車いすは、座位を自力で保つことが難しい児童生徒が適切な姿勢を保持するための装置です。座位姿勢を保持できることで、心肺機能の向上や認知の広がり等の効果が期待できます。

★次に、車いす、座位保持装置付き車いすに児童生徒が乗るとき、介助をして乗せるときのポイントを紹介합니다。

乗せる時にはティルトの角度を倒しましょう



腰は座面の奥まで深く入れて座ろう



★児童生徒が車いす、座位保持装置付き車いすに乗って学習をしているときに、姿勢を見るときポイントを紹介します。

身体は傾いていませんか



足はフットサポートに乗っていますか



★特に、自分で姿勢を変えることや身体がしんどくても訴えることが難しい児童生徒は、身近にいる教師が様子を見て姿勢を変えたり、車いすの角度を変えたりすることで身体が楽に学習できるように配慮することが大切です。